

アマゾン ウェブ サービス 認定トレーニング



◆認定トレーニングパートナーとして「AWS Partner Network」に加入

2013年10月、グローバル ナレッジ は、アマゾン ウェブ サービス(AWS) の パートナーネットワークプログラム「AWS Partner Network」(以下APN)に加入いたしました。今後は、AWS認定トレーニングパートナー(ATP)として、AWS認定トレーニングを提供します。

AWS は、現在世界190カ国の数十万に及ぶビジネスで活用されている、低コストで拡張性をもったクラウドインフラプラットフォームです。Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Elastic Load Balancing (ELB) などの主要サービスを軸としたAWSの多様なサービスの全容を体系的に理解し、迅速かつ最適なソリューションを提供できるエンジニアの育成が求められています。

グローバルナレッジでは、こうした市場のニーズに応じて、AWS入門コースに加え、AWS認定資格取得対策に最適な、ソリューションアーキテクト向けAWS認定トレーニング「Architecting on AWS」のコースを2013年12月より開催予定です。

◆AWS認定トレーニング推奨受講フロー



◆AWS認定資格

AWS 認定資格を取得すれば、AWS サービスに関するスキルを保持することを証明できます。専門分野ごとに3種のAWS認定資格があります。

設計担当者向け	運用管理担当者向け	開発担当者向け
ソリューションアーキテクト - マスター	システムオペレーションアドミニストレーター - マスター	デベロッパー - マスター
ソリューションアーキテクト - プロフェッショナル	システムオペレーションアドミニストレーター - プロフェッショナル	デベロッパー - プロフェッショナル
ソリューションアーキテクト - アソシエイト	システムオペレーションアドミニストレーター - アソシエイト	デベロッパー - アソシエイト

現在提供されているのは『ソリューションアーキテクト-アソシエイトレベル』のみです。今後、ロールや習熟度に応じたアソシエイト、プロフェッショナル、マスター各レベルの資格が登場する予定です。

試験*に合格すれば、認定資格取得!

AWS認定試験
ソリューションアーキテクト - アソシエイトレベル

AWSの知識に加え、Webシステムやネットワークの知識と経験など、総合的なITのスキルが問われます。

*試験の申込先および会場は「Kryterion Testing Centers」です。グローバルナレッジでは受験ができませんのでご注意ください。

Back to Back 10% OFF キャンペーン

【期間限定】2013年10月16日～12月31日

AWS実践入門1+AWS実践入門2 同時申込 ⇒ 10%OFF!

コース名	Amazon Web Services 実践入門1 ～一日で学ぶ、AWSクラウド活用～	Amazon Web Services 実践入門2 ～AWSクラウドのサービス実践編～	Architecting on AWS
コースコード	AWC0001V	AWC0002V	AWC0003V
期間/時間	1日間 / 9:30～18:00	1日間 / 9:30～18:00	3日間 / 9:30～17:30
形式	講義+実機演習	講義+実機演習	講義+実機演習
価格(税込)	¥63,000	同時申込で合計金額から ¥12,600OFF ¥63,000	¥189,000
概要	<p>Amazon Web Services (AWS)をこれから使い始める方に最適</p> <p>ハンズオンを通じて、基本的な多層構成Webシステムの構築を行いながら、AWSの主要サービスであるAmazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Elastic Load Balancing (ELB)の基本機能を学習します。さらに、AWS上でのベストプラクティスなアーキテクチャーを体験し、受講後AWS上でシステムを設計、検証、構築が行えるように構成された実践的なコース内容です。</p>	<p>さらに多くのAWSサービスを学習したいとお考えの方に最適</p> <p>AWS実践入門1で学習した内容を踏まえ、さらなるAWS主要サービスのより実践的な利用方法を学習します。ハンズオンを通じて、Amazon CloudWatch, Auto Scaling, Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、Amazon CloudFront, Amazon Glacier, Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)の基本機能および高度な機能を学習します。さらに、AWSならではの実践的なシステム構築、AWSのベストプラクティスに基づいたアーキテクチャーパターンを学習します。</p>	<p>AWSサービスを用いてシステムを設計し、構築したいとお考えの方、資格取得を目指す方に最適</p> <p>「Architecting on AWS」では、クラウドの伸縮自在性、スケーラビリティを最大限に利用した、一般的なITアプリケーションをAWSのサービスを使って、デザインし、構築する方法を学習します。AWS上で稼働する一般的なソリューション(ウェブアプリケーション、バッチ処理、内部ITアプリケーションホスティング)のアーキテクチャーパターンがわかります。また、伸縮自在性、スケーラビリティ、セキュリティ、および高可用性のための設計コンポーネントと機能について学習します。</p>
対象者	・これからアマゾンウェブサービス(AWS)を使い始める方	・AWS実践入門1を修了済みもしくは同等の知識がある方 ・AWS主要サービスのより実践的な利用方法を学習したい方	・AWSのアーキテクトおよびシステム設計をされる方 ・AWSを用いたシステムをお客様へご提案される方
前提条件 ■必須条件 □推奨条件	<p>■アマゾン データ サービス ジャパン(株)主催“はじめてのAWSセミナー”を受講、またはAWS特徴やメリットについて知識をお持ちの方</p> <p>■Linux OSまたは、UNIX OSの導入、管理経験</p> <p>□リレーショナルデータベース管理システム(RDBMS)の知識</p> <p>□Webシステム構築・運用経験または知識</p>	<p>■AWS実践入門1を修了、または同等の知識を有する方</p> <p>■Linux OSまたは、UNIX OSの導入、管理経験</p> <p>□リレーショナルデータベース管理システム(RDBMS)の知識</p> <p>□Webシステム構築・運用経験または知識</p>	<p>■AWS 実践入門1、2を修了済み、もしくは同等の知識がある方</p> <p>■クラウドコンピューティングの概念の知識</p> <p>□分散システムの実務的知識</p>
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ● AWSの概要を理解する ● AWSの主要サービスの基本的な操作ができる ● 基本的なAWSの主要サービスを使用してシステム構築ができる ● スモールスタートから多層構成システムに展開するハンズオンを通じ、実践的なシステム構築を理解する ● AWSのベストプラクティスなアーキテクチャーパターンを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ● AWSにおける運用監視の基本を理解する ● 自動的にスケールするシステムの設定など応用操作を理解する ● 耐障害性や性能向上を考慮したサービスの利用方法を理解する (Amazon EBS) ● AWSの各種サービスの活用を理解する ● ハンズオンを通して、AWSクラウドならではの実践的なシステム構築を理解する ● AWSのベストプラクティスに基づいたアーキテクチャーパターンを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ● AWS上での、Webアプリケーション、バッチプロセス、インターナルITアプリケーションのホスティングなど、一般的なアーキテクチャーパターンを理解する ● 拡張性、柔軟性、高可用性を考慮したシステム設計を理解する ● AWS上でのセキュリティ、認証、承認を考慮したシステム設計を理解する ● クラウドへの移行パスを理解する ● コスト最適化を考慮したシステム設計を理解する
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. アマゾンウェブサービス (AWS)の概要 2. Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) 起動に必要な準備作業 3. Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) の起動と終了 4. Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) の利用 5. Amazon Machine Image (AMI)の利用 6. Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の利用 7. Elastic Load Balancing (ELB)の利用 8. 本番環境構築にむけて 9. [Appendix] Amazon Elastic Block Store (EBS) の利用 10. Q&A 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Amazon CloudWatchによる監視と通知 2. Auto Scalingの設定と動作確認 3. Amazon CloudFrontの配信設定 4. Amazon Simple Storage Serviceによるオブジェクトの高度な管理 (Amazon Glacier) 上 5. Amazon EBS ～耐障害性の向上～ 6. Amazon EBS の I/O性能チューニング 7. その他のサービスの紹介 (Amazon Virtual Private Cloud, Amazon CloudFormation, Amazon Simple Queue Service) 8. Q&A 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウェブアプリケーションアーキテクチャー 2. ウェブアプリケーションアーキテクチャーのための AWS のサービス 3. セキュリティ&コンプライアンス 4. データストレージのスケールアップ 5. クラウド内でのアーキテクチャー設計 6. バッチ処理アーキテクチャー 7. バッチ処理アーキテクチャーのための AWS のサービス 8. エラスティシティとスケーラビリティ 9. プートストラッピング 10. 構造化データストア 11. 費用を考慮した設計 12. VPC 13. アイデンティティ、認証、認可 14. 高可用性/災害復旧 15. 既存アプリケーションの移行

※アマゾンウェブサービス、Amazon Web Services、Amazon EC2、Amazon S3、Amazon RDSおよびAWSは、Amazon.com, Inc. またはその関連会社の商標です。